

平成二十五年度 卒業式 式辞

厳しい寒さが続いたこの冬のなごりを感じながら、春の訪れを待っていた草花に、命の力強さを感じる季節となりました。この佳き日に、愛西市立立田南部小学校を巣立ちゆく三十八名のみなさん「卒業おめでとうございます」

本日、本校の卒業式にあたり、愛西市長 日永貴章 様はじめ、多数のご来賓の皆様にお越しいただいております。高い席からではございますが、心からお礼申し上げます。「ありがとうございます」

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。今、お子様から渡された卒業証書は、ずっしりと、しかも、心地よい重さが伝わったのではないでしょうか。これまで六年間に渡り、本校の教育に対して、ご理解ご協力をいただき、お子様の成長にため、

共に力を合わせて進むことができましたこと、厚くお礼申し上げます。

さて、卒業生のみなさん。皆さんと私の出会いは、皆さんが三年生になったときです。とても明るく元気な学年という印象が、強く残っています。そして、いつの間にか六年生。運動会や学習発表会などの大きな行事では、この長所を生かし、最上級生として活躍してくれました。それ以上に心に残っていることは、「悠々の里」へ訪問し、おじいさんやおばあさんと交流したことです。私は一緒に行くことはできませんでしたが、皆さんがおじいさんやおばあさんのために一生懸命準備し、そして、当日も熱心に活動したことを、担任の先生から聞いてとても嬉しく思いました。「人の役に立つ」ということは、人として最高の喜びだと思っています。

また、二月下旬に校長室で、みんなと一緒に給食を食べましたね。そのとき、ほとんど

の子が自分の夢を話してくれました。夢をもつて、その夢を叶えるために努力することはとても大切です。夢を叶えることは自分のためでもあります。周りの人を幸せにすることもできます。「人の役に立つ」のです。

話は変わりますが、二年前の卒業式で、男子フィギュアスケートの羽生結弦選手の話をしました。東日本大震災で大きな被害を受けた羽生選手は、悲しさや苦しさを乗り越え、誰もが知っているようにソチオリンピックで金メダルを獲得しました。この結果はもちろん彼の努力の賜ですが、東日本大震災でまだ苦勞している多くの人たちに、喜びと感動を与えたいという強い思いが、この結果につながっていると思います。「人の役に立ちたい」という強い思いです。そして、彼が金メダル獲得という夢を叶えたことは、多くの人に喜びと感動を与え、「人の役に立つ」ことができただのです。

同じソチオリンピックで、夢を叶えることができなかった人もいます。女子フィギュアスケートの浅田真央選手です。浅田選手は、金メダルを期待されながら、SP終了時点で十六位という不本意な成績でした。しかし、この時点で日本人だけでなく、世界中の人々が浅田選手を励まし、応援しました。そして、フリーでは六種類の三回転ジャンプを全て成功させるといふほぼ完璧な滑りをしました。

最終結果は六位に終わり、金メダルという夢は叶いませんでしたが、最後まで諦めない浅田選手から、多くの人が喜びと感動をもらいました。夢は叶わなかったけれども、多くの「人の役に立つ」ことができました。

私は、この二人から多くのことを学ばせていただきました。夢を叶えるという結果は大切ですが、そこに到る過程でどんな思いを抱き、どう努力したかがもっと大切なのです。二人の結果は違っても、夢に向かって努力す

る過程の素晴らしさは同じです。だからこそ、二人ともが、多くの人に喜びと感動を与え、逆に、多くの人から愛され応援していただけたのです。

そしてこのような人たちは、

「基本のABC T」と

A：当たり前前のことを

B：バカにしないで

C：ちゃんとやり

T：続ける

「基本のABC K」

A：当たり前前のことを

B：バカにしないで

C：ちゃんと

K：感謝する

ができる人なのです。

卒業生の皆さん、もう一度、心を込めて、ご卒業おめでとうございます。

卒業、それは、始まりのときでもあります。

皆さん、胸を張り、背を伸ばして、前へ前へと進んで、自分らしい人生を創り出しましょう。そして、明るくたくましく育ってくださいます。皆さんの将来、未来に、幸多かれと心から祈り、式辞といたします。

平成二十六年三月二十日

愛西市立立田南部小学校長

小島基生